

カートリッジとちがって、アームには固有の音色は無いはずですが、アームを変えると音質が変わるという事実は、針先がレコード音溝を正しくトレースするためには、《アームを選ぶ必要》があることを証明しています。

内外のアームを見わたすと非常に複雑な外観をもつものを数多く見受けませんが、アームの可動部はカートリッジに見合う適当な重量をもち、且つ単純に作るのが設計の基本で、この原則を無視して、いたづらに複雑な構造を追求してみても、高性能は望めません。

《アーム本来の目的——追従性》というごく当り前の原則を、あらゆる角度から検討した上、どんなカートリッジと組合せてもインテグレートッド級の性能をもつ様に作られたアーム、これが **UA-3N** (35cm型) および **UA-3NL** (40cm型) です。

---

### アーム設計のキーポイント——追従性 (Trackability)

---

顕微鏡で見るとレコード音溝は左右に曲りくねった山／谷の連続ですが、それに、肉眼でもわかるソリ／偏心が加わります。カートリッジ針先が、どこまで正しく、この音溝をトレースできるか——ここにアーム設計のキーポイントがあるわけです。

特に、ハイ・コンプライアンスのカートリッジを軽針圧で使うときなど、最適の実効質量ときわめて鋭敏な回転感度をもつ高追従性アームが絶対に必要ですが、きびしいこの要求に応えうるほとんど唯一つのアーム、これが **UA-3N** / **NL** です。

---

#### 追従性の問題①——実効質量

---

**UA-3N** / **NL** の可動部 (シエル→パイプ→軸受) は剛性の大きい軽合金の巧妙な加工により、アームに起りやすい有害な共振を根絶すると同時に、内外各種のカートリッジと組合せても実効質量の値は十分に小さく、最も高い追従性が得られます。

実効質量とカートリッジのコンプライアンスで決まる低域共振周波数  $f_0$  は、低すぎればレコードのソリ／偏心の悪影響を受け、高すぎれば低域再生に問題が起りますが、**UA-3N** / **NL** では  $f_0$  は約 7～12Hz という理想的な範囲に収まります。実験のためシエルに適当なオモリを乗せ、実効質量を一般のアームなみに増加してみると追従性が目立って悪くなります。こうしてみると軽量アーム **UA-3N** / **NL** が抜群の追従性をもっていることがお分かり頂きましょう。

---

#### 追従性の問題②——回転感度

---

**UA-3N** / **NL** は、尖端が  $50\mu R$  に研磨された精密ピボットによる 1 点支持と、ボールベアリング外輪で左右傾斜を規制するスタビライザーを組合せ